

《 調査概要 》

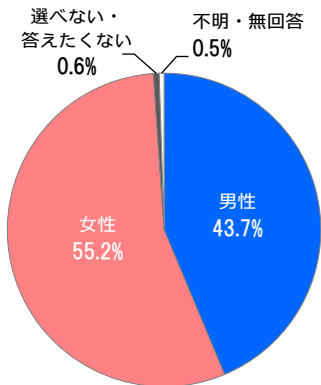
- ◇ 調査の対象者 : 多摩区在住の18歳以上の男女個人（外国人を含む）
- ◇ 標本抽出方法 : 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出
- ◇ 調査方法 : 郵送法（郵送配布・郵送回収）
- ◇ 調査期間 : 令和2年10月22日（木）～11月24日（火）
- ◇ 調査委託機関 : 株式会社 総合企画

《 回収状況 》

- ◇ 標本数 : **2,000** 人 
- ◇ 無効回答数 : **1** 人 
- ◇ 有効回答数 : **1,045** 人  [回収率] **52.3%**

《 調査回答者の属性 》

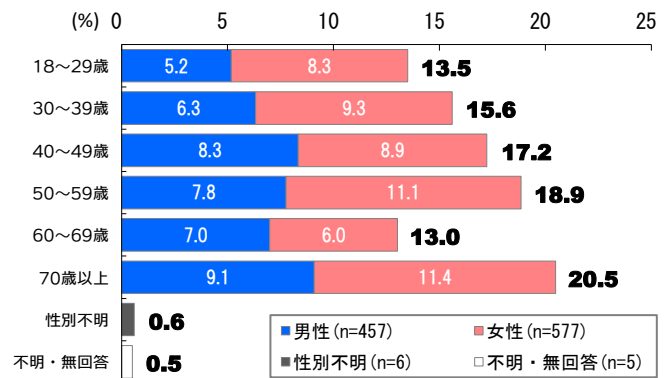
■ 性別



(N=1,045)

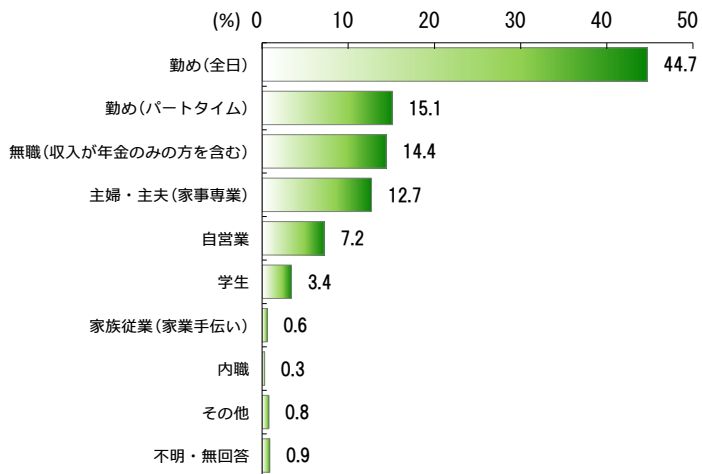
■ 性年代別

(N=1,045)



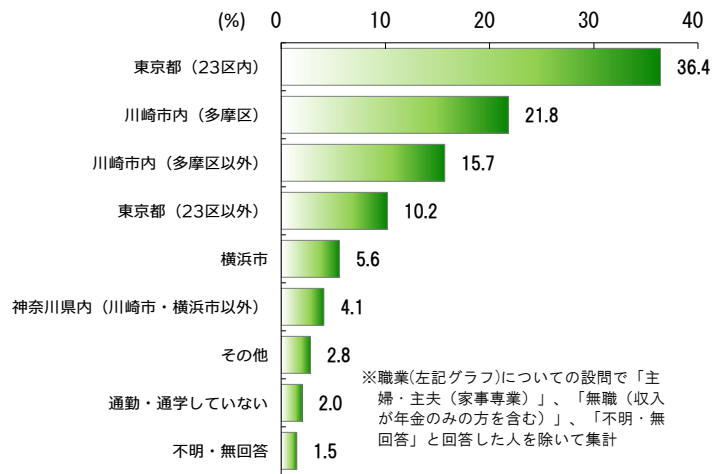
■ 職業

(N=1,045)



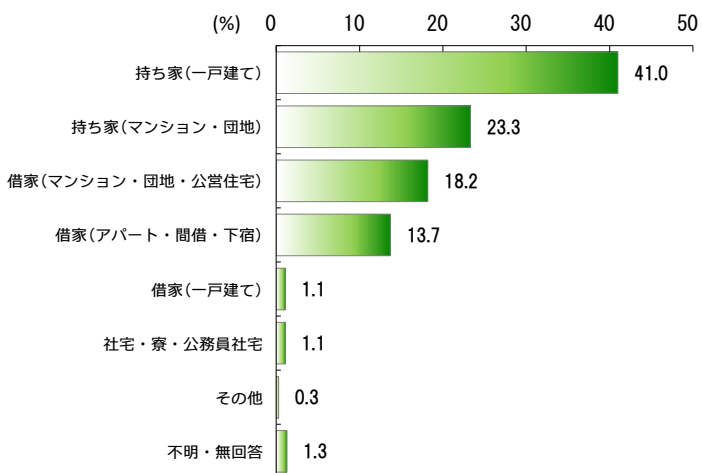
■ 通勤先/通学先

(N=753)



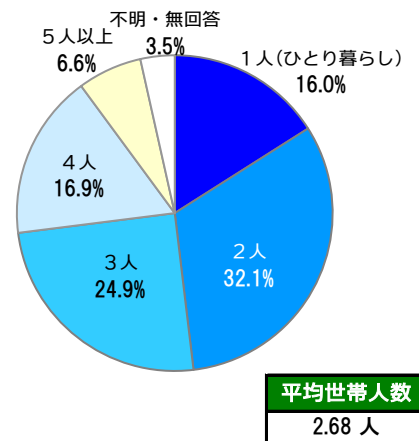
■ 住居形態

(N=1,045)

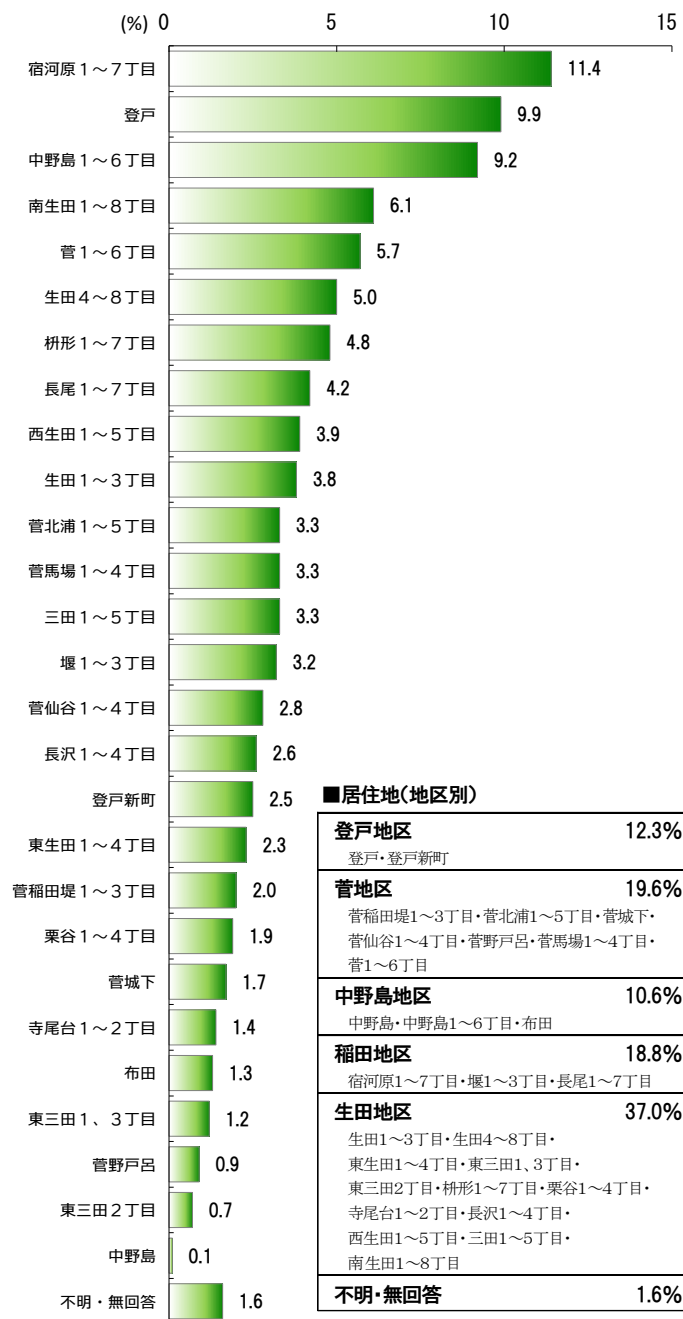


■ 世帯人数

(N=1,045)



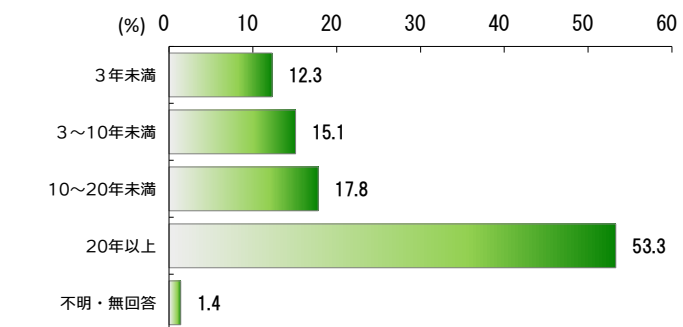
■ 居住地 (N=1,045)



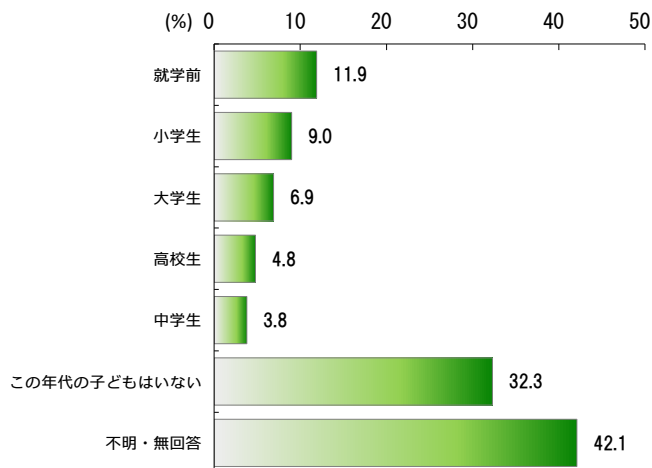
■ 居住地(地区別)

登戸地区	12.3%
登戸・登戸新町	
菅地区	19.6%
菅稲田堤1～3丁目・菅北浦1～5丁目・菅城下・菅仙谷1～4丁目・菅野戸呂・菅馬場1～4丁目・菅1～6丁目	
中野島地区	10.6%
中野島・中野島1～6丁目・布田	
稲田地区	18.8%
宿河原1～7丁目・堰1～3丁目・長尾1～7丁目	
生田地区	37.0%
生田1～3丁目・生田4～8丁目・東生田1～4丁目・東三田1、3丁目・東三田2丁目・枅形1～7丁目・栗谷1～4丁目・寺尾台1～2丁目・長沢1～4丁目・西生田1～5丁目・三田1～5丁目・南生田1～8丁目	
不明・無回答	1.6%

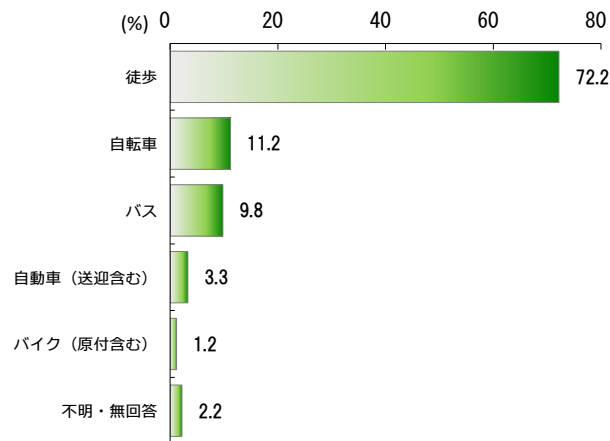
■ 居住年数 (N=1,045)



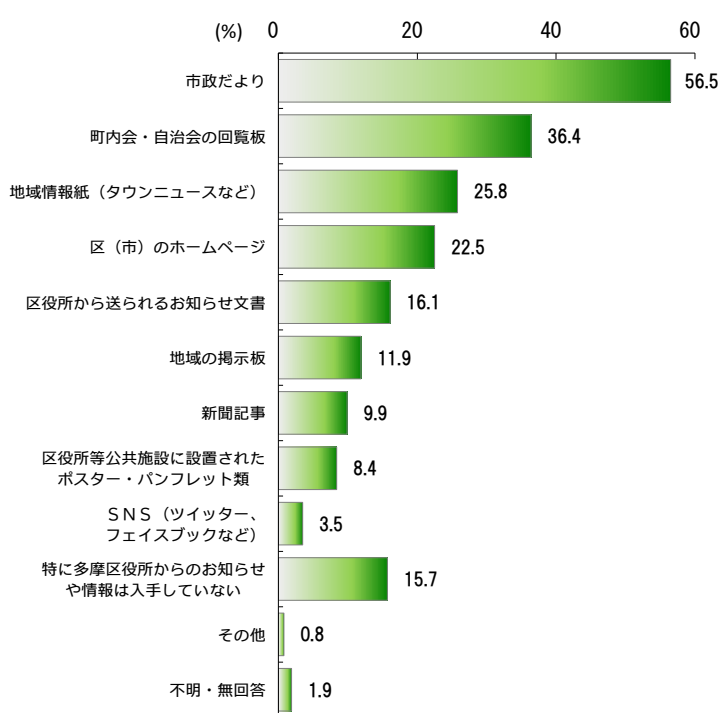
■ 子どもの年代 (N=1,045)



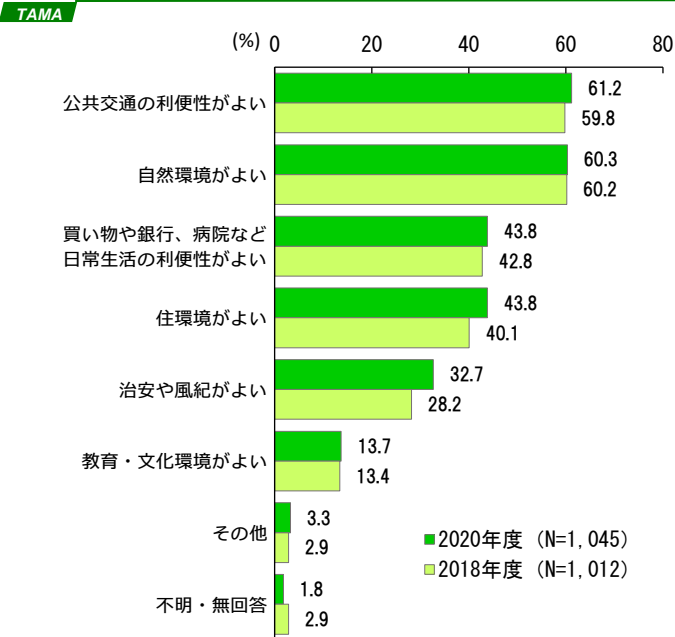
■ 最寄り駅までの交通手段 (N=1,045)



■ 区の知らせや情報の入手手段 (N=1,045)



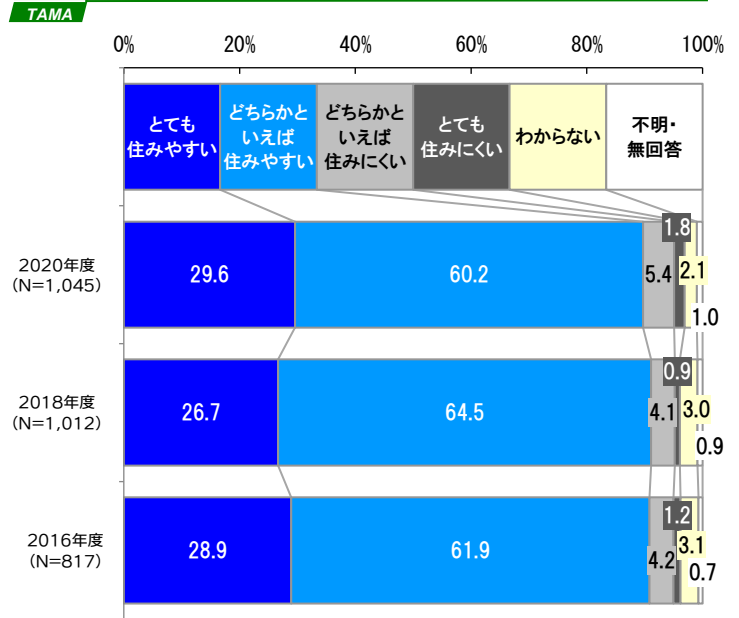
1 多摩区の長所・魅力



「多摩区の長所・魅力」について聞いたところ、「公共交通の利便性がよい」(61.2%)が最も高い結果となり、次いで「自然環境がよい」(60.3%)と上位2項目が60%を超える高い結果となった。

2018年度も「公共交通の利便性がよい」、「自然環境がよい」が上位2項目となっており、ほぼ同じ傾向となった。

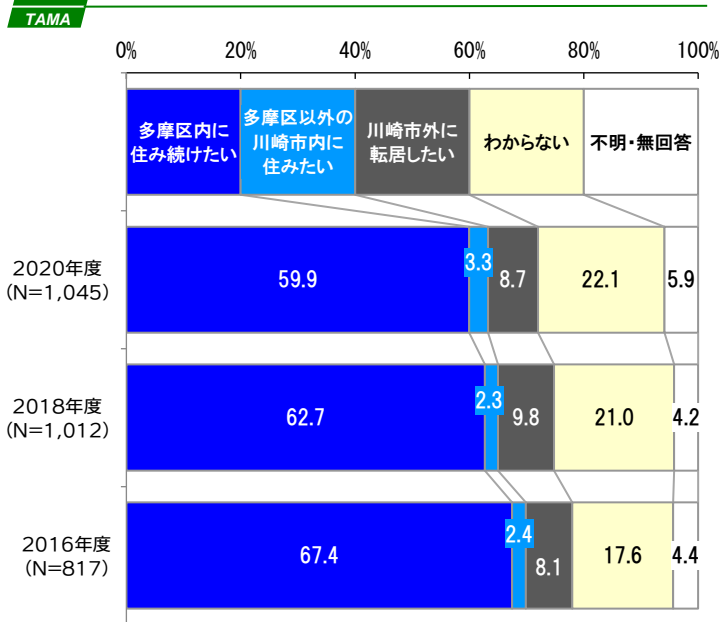
2 住みやすさ



「住みやすさ」について聞いたところ、「どちらかといえば住みやすい」(60.2%)、「とても住みやすい」(29.6%)の順となり、「とても住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい計』(89.8%)が高い結果となった。

2018年度との比較では、『住みやすい計』だけでなく全体的にほぼ変わらない結果となった。

3 定住意向

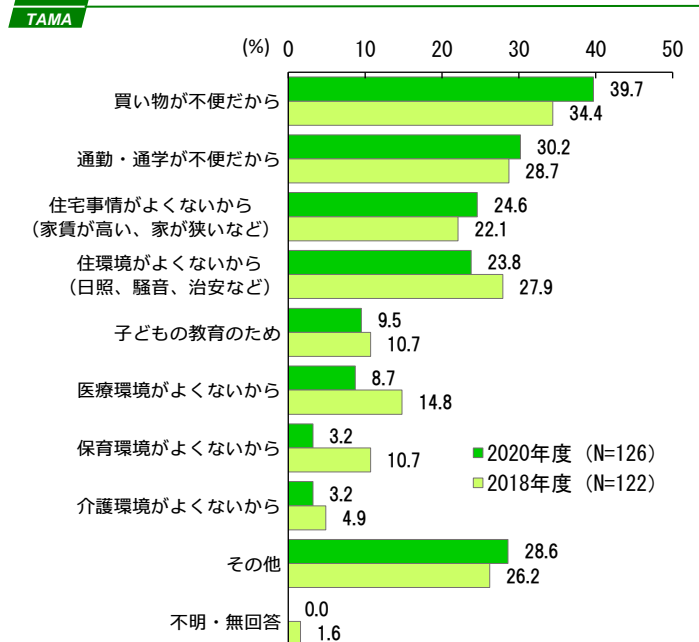


「定住意向」について聞いたところ、「多摩区内に住み続けたい」(59.9%)が最も高い結果となった。

過去2回の調査結果でも、「多摩区内に住み続けたい」の割合が最も高かったが、年々減少しており、2018年度との比較では、2.8ポイントの減少となった。

また「川崎市外に転居したい」は、2018年度との比較では、1.1ポイントの減少となった。

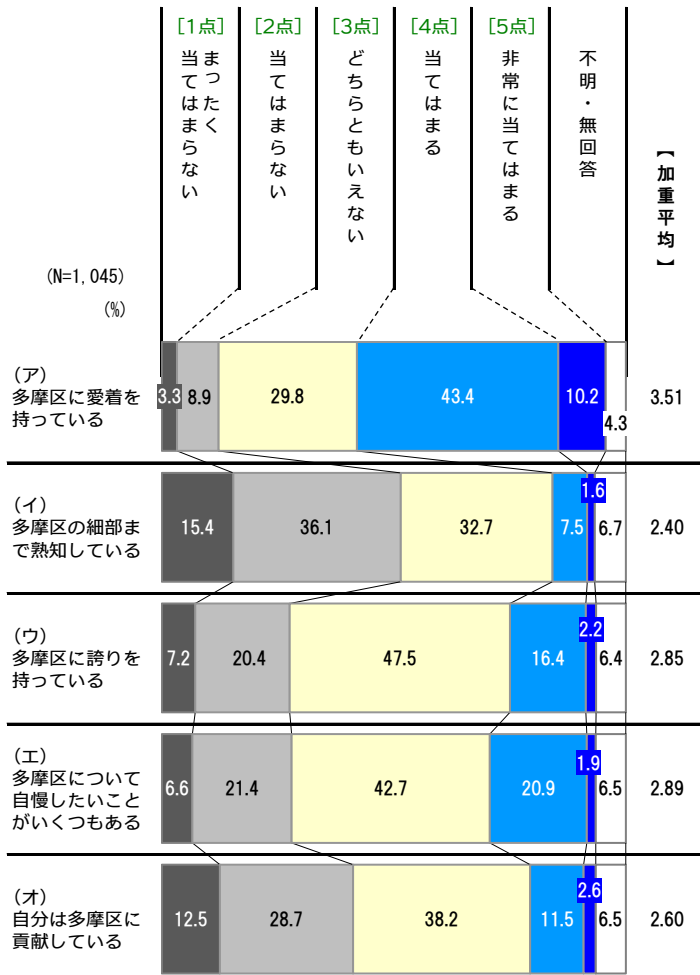
4 区外転居意向の理由



「3. 定住意向」で「多摩区以外の川崎市内に住みたい」「川崎市外に転居したい」と回答した人に「区外転居意向の理由」について聞いたところ、「買い物が不便だから」(39.7%)が最も高く、次いで「通勤・通学が不便だから」(30.2%)、「住宅事情がよくないから (家賃が高い、家が狭いなど)」(24.6%)、「住環境がよくないから (日照、騒音、治安など)」(23.8%)の順となり、上位4項目が20%を超える結果となった。

5 多摩区に対する愛着や誇り

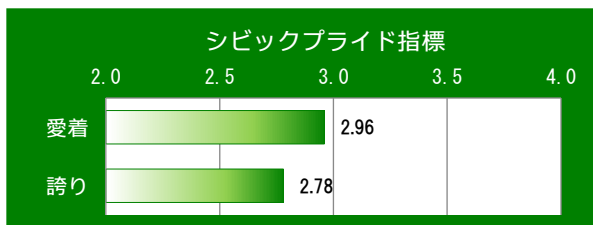
TAMA



加重平均は、「まったく当てはまらない」（1点）から「非常に当てはまる」（5点）まで重み付けして、平均を計算したものである。

「多摩区に対する愛着や誇り」について聞いたところ、「非常に当てはまる」と「当てはまる」を合わせた『当てはまる計』では、他の項目に比べ「(ア) 多摩区に愛着を持っている」(53.6%)が最も高かった。

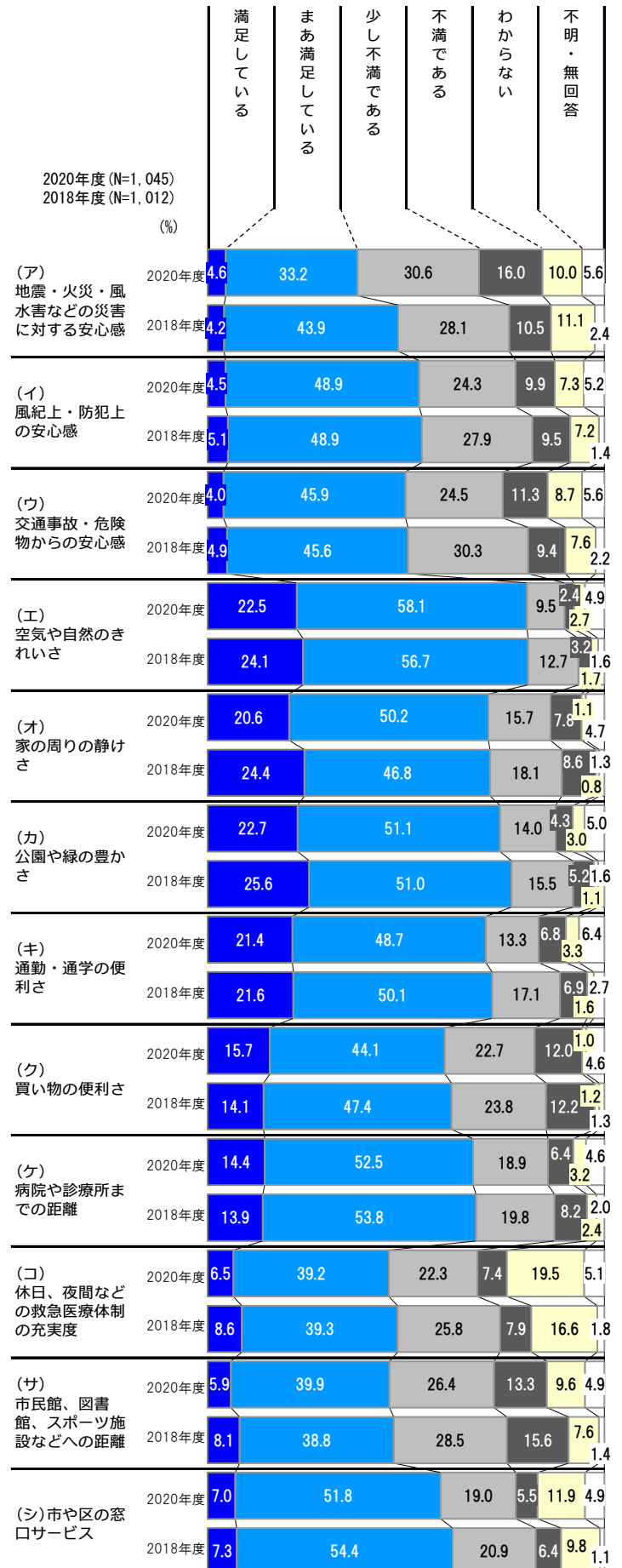
一方、「まったく当てはまらない」と「当てはまらない」を合わせた『当てはまらない計』では「(イ) 多摩区の細部まで熟知している」(51.5%)が最も高い結果となった。



シビックプライド指標とは、自分の住んでいるまちに対する愛着や誇りを表す概念のこと。多摩区では、質問(ア)、(イ)を「愛着」、質問(ウ)、(エ)、(オ)を「誇り」の指標として、それぞれの質問項目の平均値から算出した。

6 多摩区の生活環境

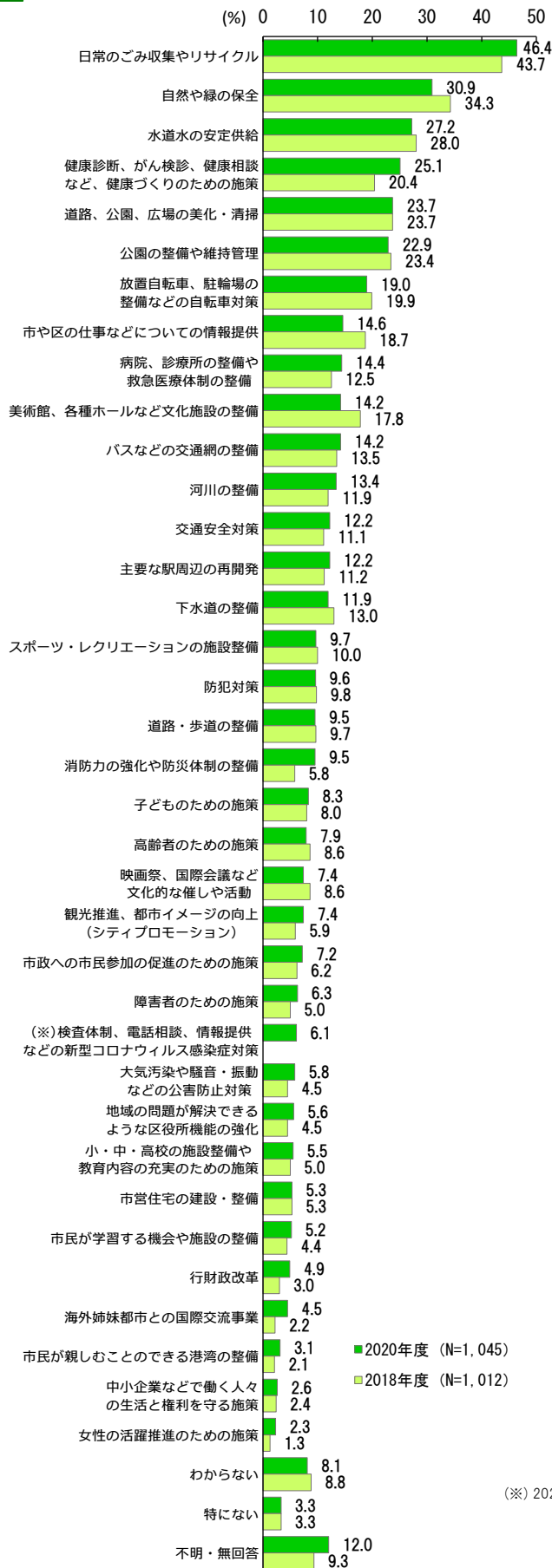
TAMA



「多摩区の生活環境」について聞いたところ、「満足している」「まあ満足している」を合わせた『満足している計』で、「空気や自然のきれいさ」(80.6%)が最も高く、2018年度と同じ結果となった。

7 市政についてよくやっていると思うもの

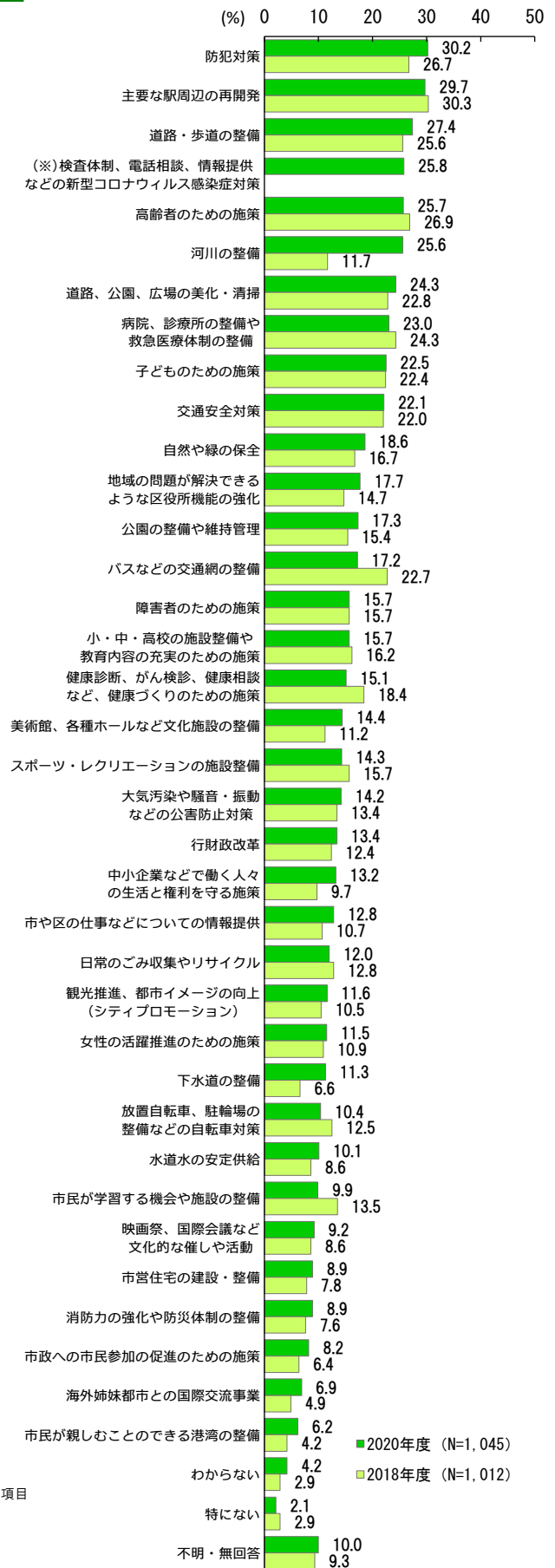
TAMA



「市政についてよくやっていると思うもの」について聞いたところ、「日常のごみ収集やリサイクル」(46.4%)が最も高く、次いで「自然や緑の保全」(30.9%)、「水道水の安定供給」(27.2%)の順となった。

8 市政について今後特に力を入れてほしいもの

TAMA

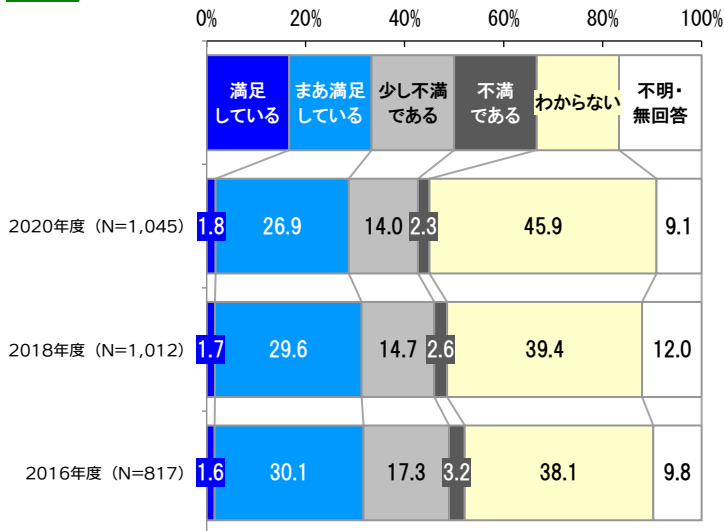


(※) 2020年度の新規項目

「市政について今後特に力を入れてほしいもの」について聞いたところ、「防犯対策」(30.2%)が最も高く、次いで「主要な駅周辺の再開発」(29.7%)、「道路・歩道の整備」(27.4%)の順となった。また2018年度は22位だった「河川の整備」が、6位に大きく順位を上げる結果となった。

9 市の施策や事業の総合満足度

TAMA



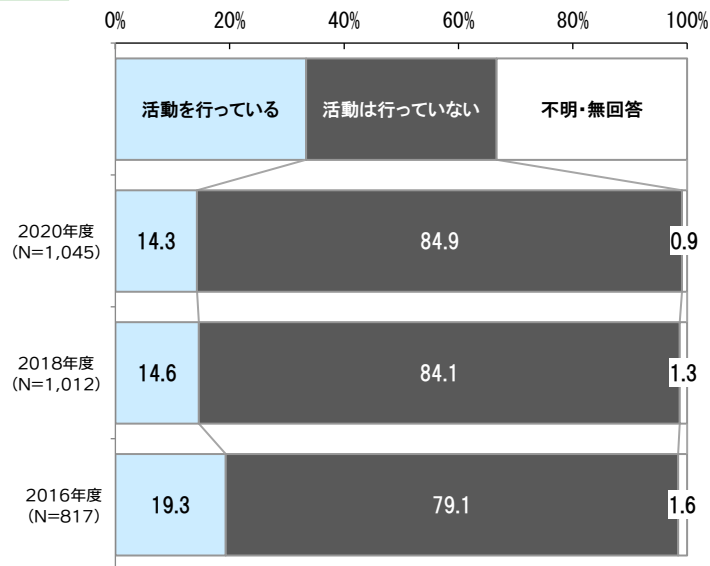
「市の施策や事業の総合満足度」について聞いたところ、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している計』(28.7%)となった。

2016年度、2018年度と比較して、微減の傾向となった。また「わからない」についても過去3回の調査で最も高い(45.9%)となった。

TAMA 市政への参加、地域でのボランティア活動などについて KAWASAKI CITY

10 地域活動の状況

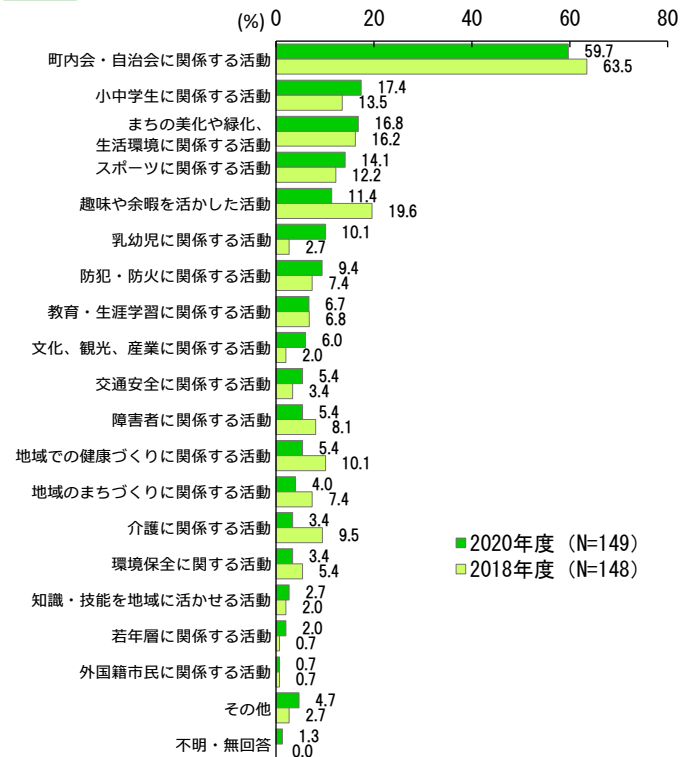
TAMA



「地域活動の状況」について聞いたところ、「活動を行っている」は14.3%で、2018年度とほぼ変わらない結果となった。

11 行っている地域活動の分野

TAMA



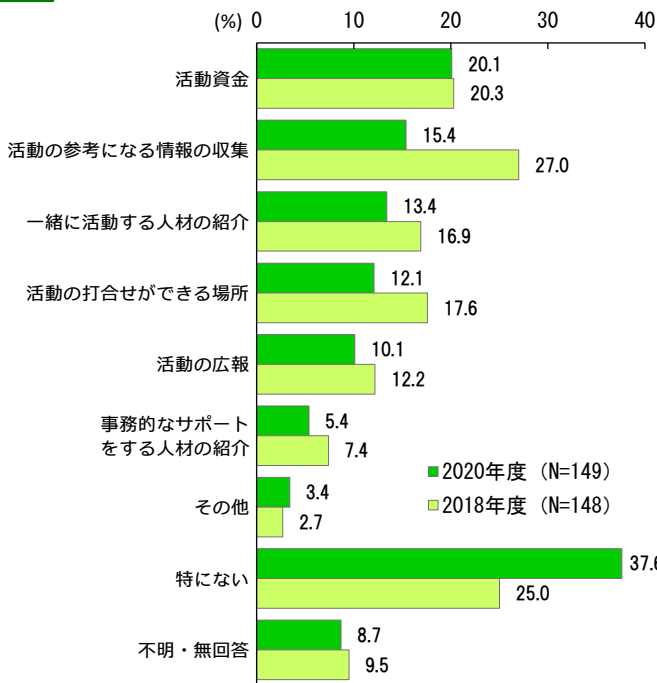
※「若年層に関する活動」は、2018年では「青年に関する活動」として聴取
 ※「まちの美化や緑化、生活環境に関する活動」は、2018年度では「街の美化や緑化、生活環境に関する活動」として聴取

「10. 地域活動の状況」で「活動を行っている」と回答した人に、「行っている地域活動の分野」について聞いたところ、「町内会・自治会に関する活動」(59.7%)が最も高く、次いで「小中学生に関する活動」(17.4%)、「まちの美化や緑化、生活環境に関する活動」(16.8%)、「スポーツに関する活動」(14.1%)の順となった。

地域活動をする上で

12

支援を受けたいと思うもの

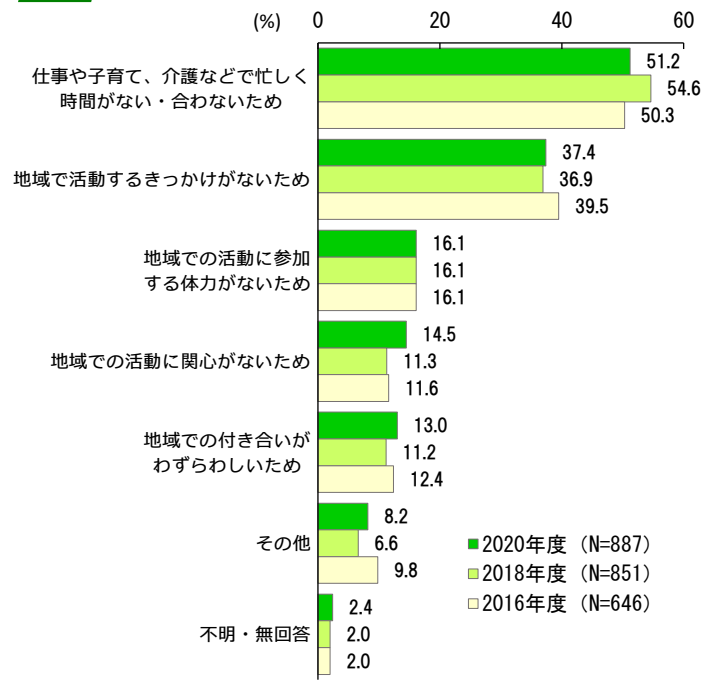


「10. 地域活動の状況」で「活動を行っている」と回答した人に、「地域活動をする上で支援を受けたいと思うもの」について聞いたところ、「活動資金」(20.1%)が最も高く、次いで「活動の参考になる情報の収集」(15.4%)、「一緒に活動する人材の紹介」(13.4%)の順となった。

また「特にない」は(37.6%)と全体の3分の1以上の割合となった。

13

地域活動を行っていない理由



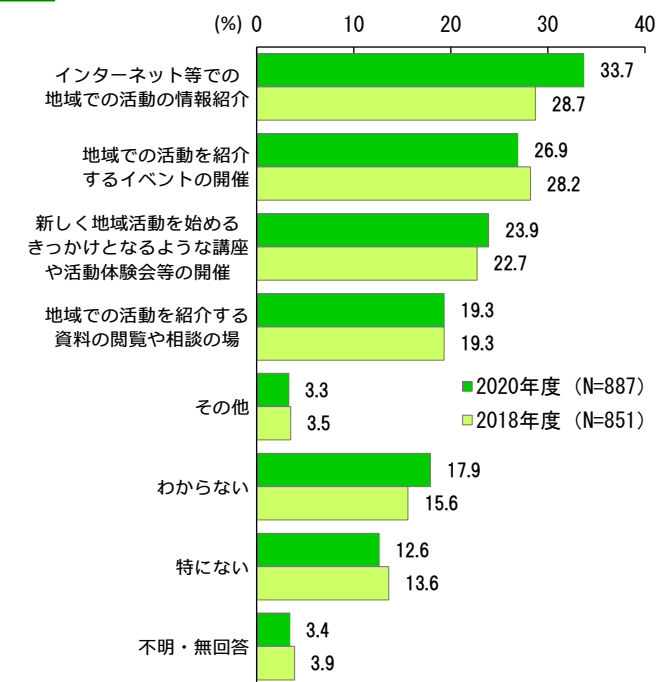
「10. 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、「地域活動を行っていない理由」について聞いたところ、「仕事や子育て、介護などで忙しく時間がない・合わないため」(51.2%)が最も高く、次いで「地域で活動するきっかけがないため」

(37.4%)、「地域での活動に参加する体力がないため」(16.1%)の順となった。

2016年度から上位3項目の順位は変わらず、引き続き高い結果となった。

14

地域活動を始めするために必要な機会や場



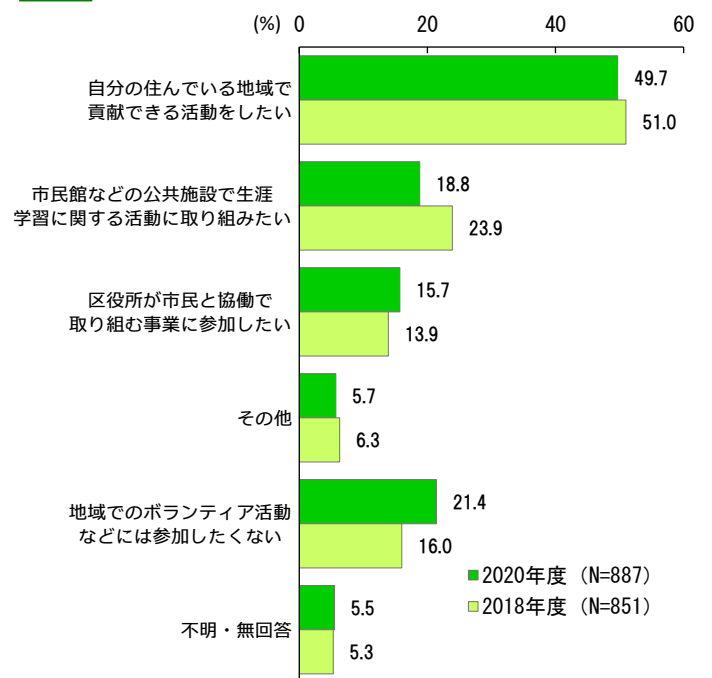
「10. 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、「地域活動を始めするために必要な機会や場」について聞いたところ、「インターネット等での地域での活動の情報紹介」(33.7%)が最も高く、次いで「地域での活動を紹介するイベントの開催」

(26.9%)、「新しく地域活動を始めようとするような講座や活動体験会等の開催」(23.9%)の順となった。

2018年度と比較して、上位3項目の順位は変わらない結果となった。

15

地域活動への取組意向

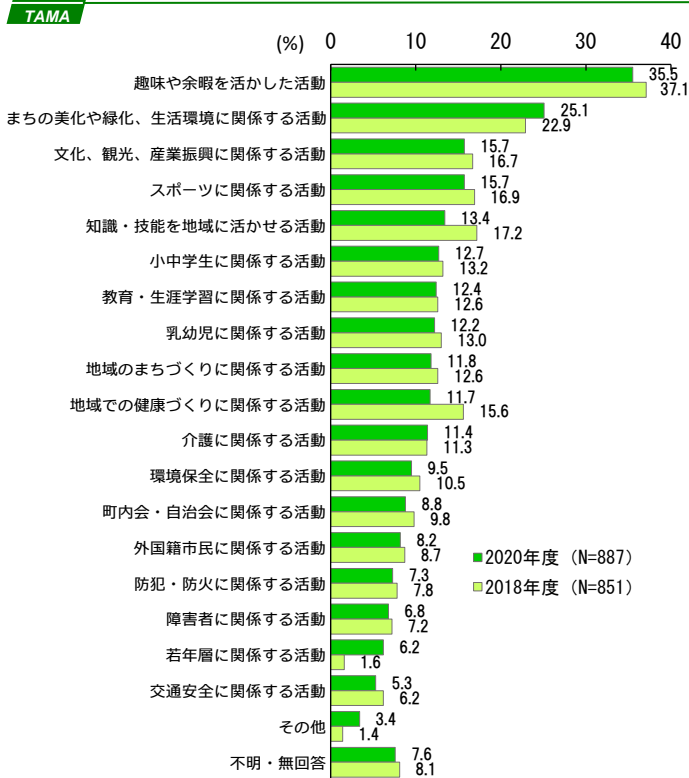


「10. 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、「地域活動への取組意向」について聞いたところ、「自分の住んでいる地域で貢献できる活動をしたい」(49.7%)が最も高く、次いで「市民館などの公共施設で生涯学習に関する活動に取り組みたい」

(18.8%)、「区役所が市民と協働で取り組む事業に参加したい」(15.7%)の順となった。

また「地域でのボランティア活動などには参加したくない」は(21.4%)となった。

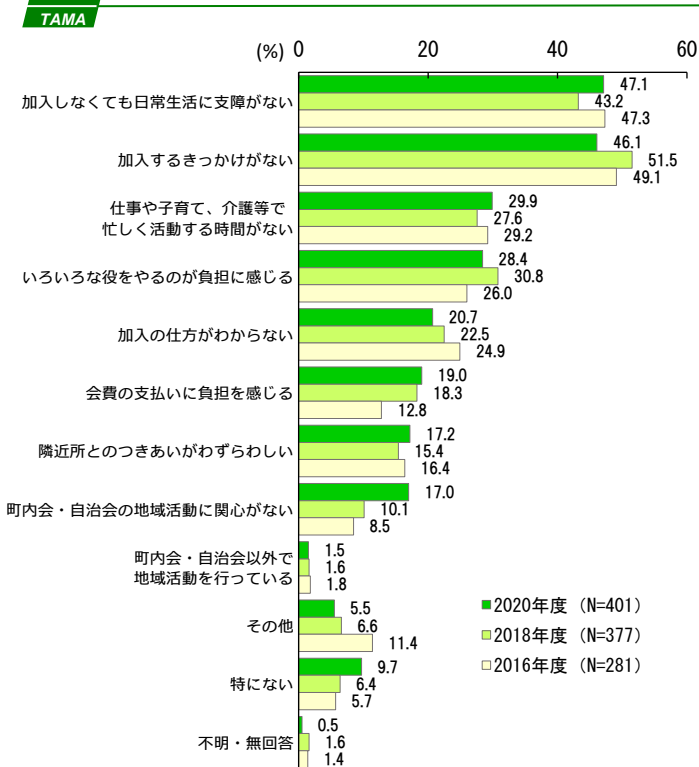
16 地域活動への関心分野



※「若年層に関する活動」は、2018年では「青年に関する活動」として聴取
 ※「まちの美化や緑化、生活環境に関する活動」は、2018年度では「街の美化や緑化、生活環境に関する活動」として聴取

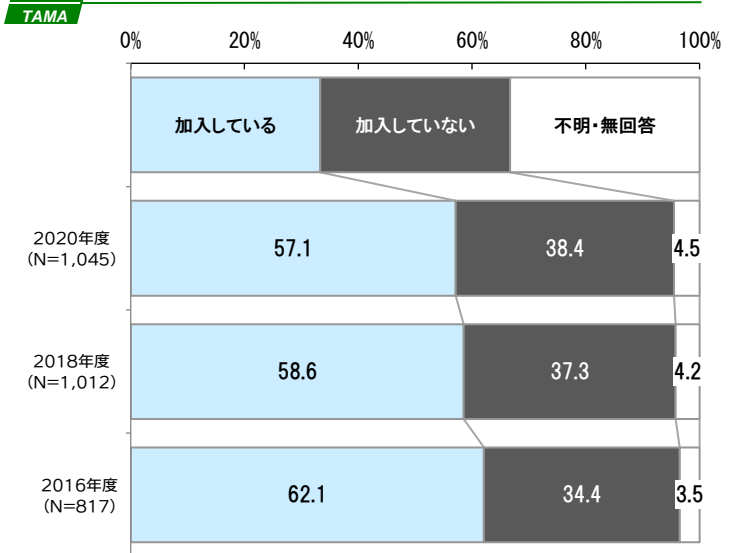
「10. 地域活動の状況」で「活動は行っていない」と回答した人に、「地域活動への関心分野」について聞いたところ、「趣味や余暇を活かした活動」(35.5%)が最も高く、次いで、「まちの美化や緑化、生活環境に関する活動」(25.1%)、「文化、観光、産業振興に関する活動」(15.7%)、「スポーツに関する活動」(15.7%)の順となった。

18 町内会・自治会に加入していない理由



「17. 町内会・自治会への加入状況」で「加入していない」と回答した人に「町内会・自治会に加入していない理由」について聞いたところ、「加入しなくても日常生活に支障がない」(47.1%)が最も高い結果となり、次いで「加入するきっかけがない」(46.1%)が40%を超え、高い結果となった。上位2項目については、2016年度、2018年度と比較して同様の結果となった。

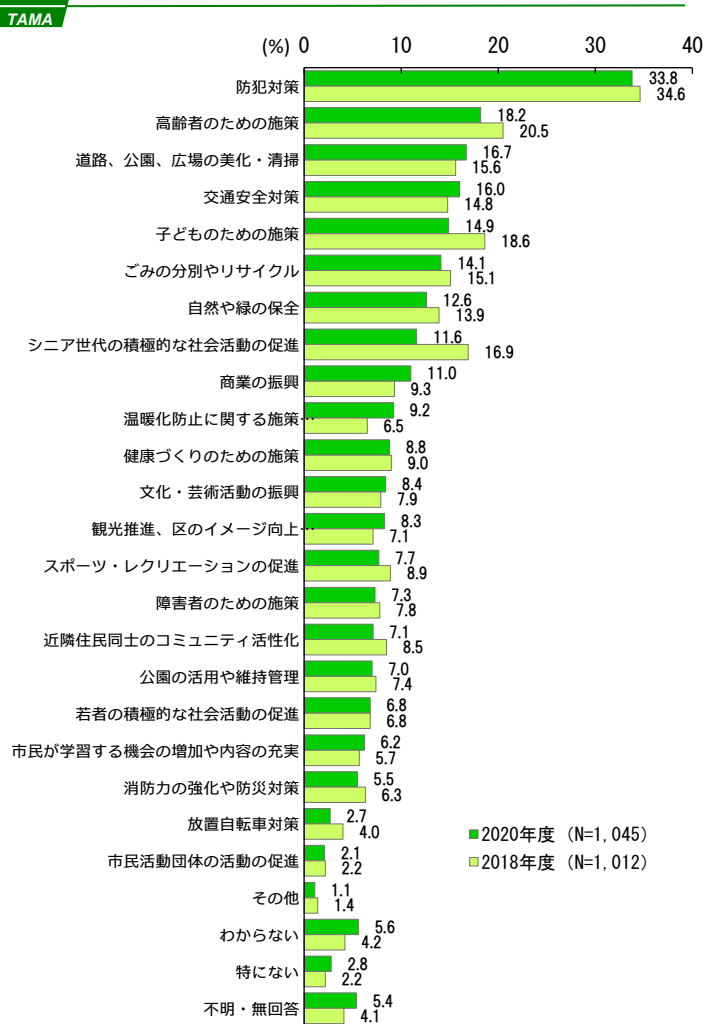
17 町内会・自治会への加入状況



「町内会・自治会への加入状況」について聞いたところ、「加入している」は57.1%で半数を超える結果となったが、2016年度から年々減少し、2016年度と比較して5.0ポイント減少した。

区民と行政が協働して取り組んだ

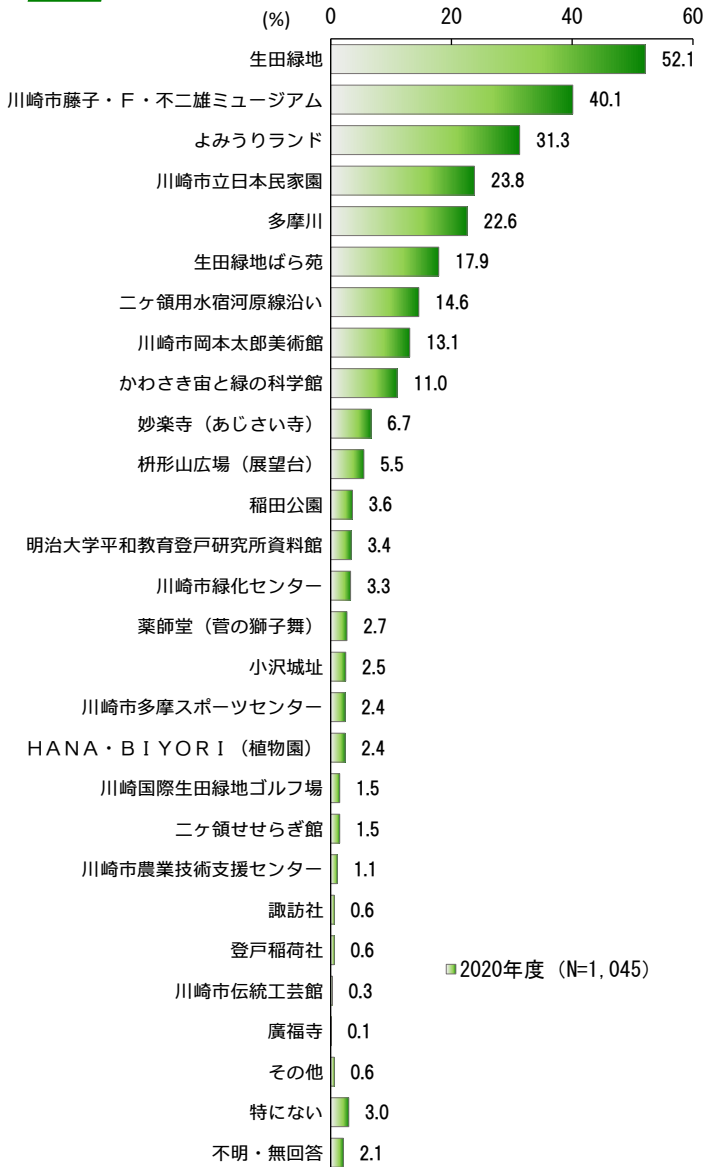
ほうが効果的だと思うもの



「区民と行政が協働して取り組んだほうが効果的だと思うもの」について聞いたところ、「防犯対策」(33.8%)が最も高い結果となり、次いで「高齢者のための施策」(18.2%)、「道路、公園、広場の美化・清掃」(16.7%)、「交通安全対策」(16.0%)の順となった。

20 多摩区の見どころ

TAMA

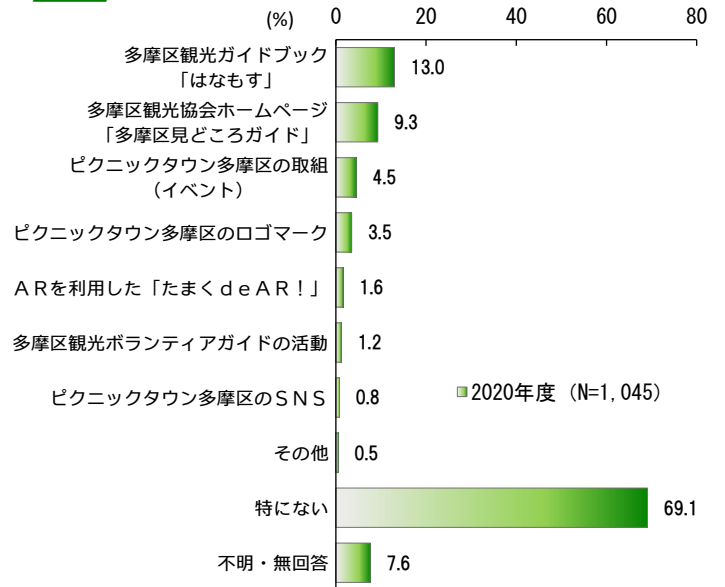


「多摩区の見どころ」について聞いたところ、「生田緑地」(52.1%)が半数を超え最も高く、次いで「川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム」(40.1%)、「よみうりランド」(31.3%)の順となった。



21 区の観光振興やイメージ、地域ブランド向上を目指す取組の認知状況

TAMA

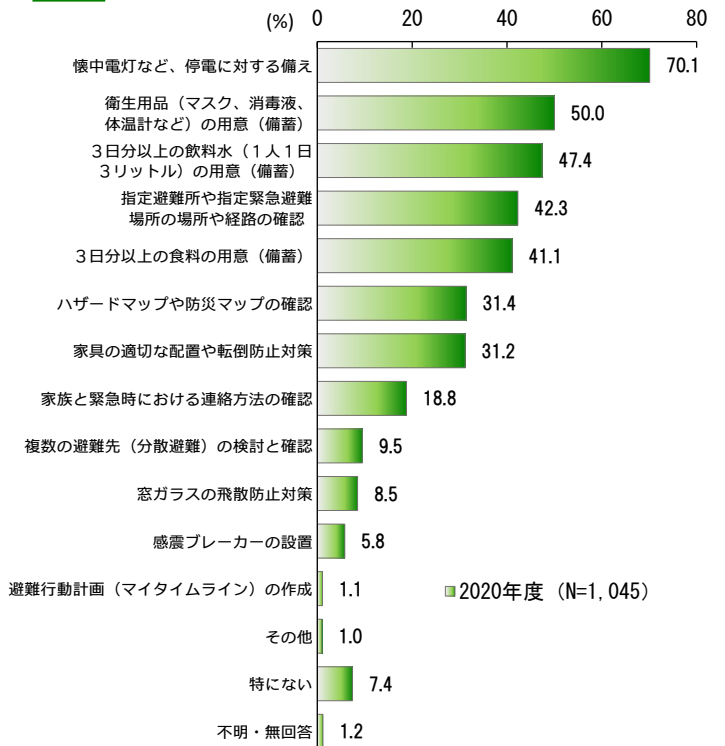


「区の観光振興やイメージ、地域ブランド向上を目指す取組の認知状況」について聞いたところ、「特になし」(69.1%)が最も高い結果となった。

認知状況で見ると「多摩区観光ガイドブック「はなもす」」(13.0%)が最も高く、次いで「多摩区観光協会ホームページ「多摩区見どころガイド」」(9.3%)の順となった。

22 地震・風水害などの災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組

TAMA

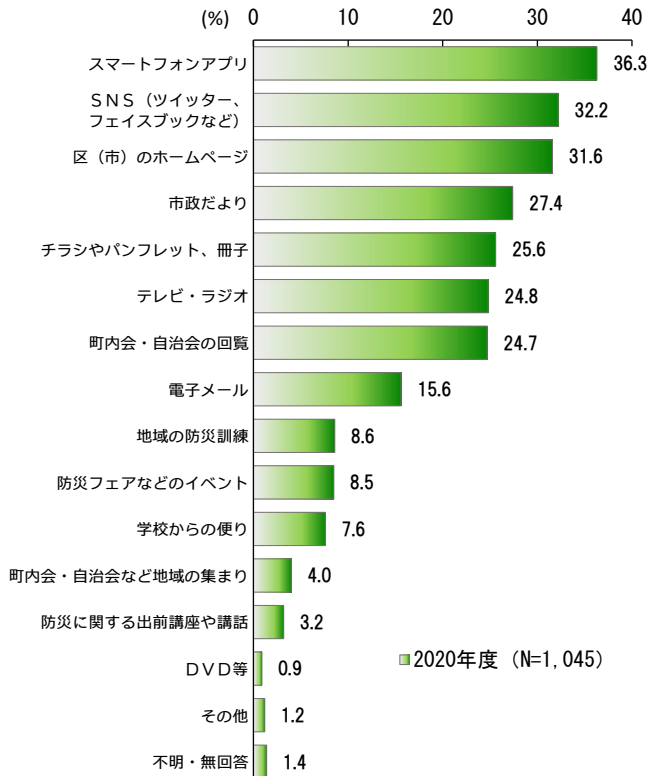


「地震・風水害などの災害に備えるため、家庭内で現在行っている取組」について聞いたところ、「懐中電灯など、停電に対する備え」(70.1%)で最も高く、次いで「衛生用品(マスク、消毒液、体温計など)の用意(備蓄)」(50.0%)、「3日以上飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)」(47.4%)の順となった。

23 災害に対する備えに関する情報の効果的な提供手段

23

TAMA

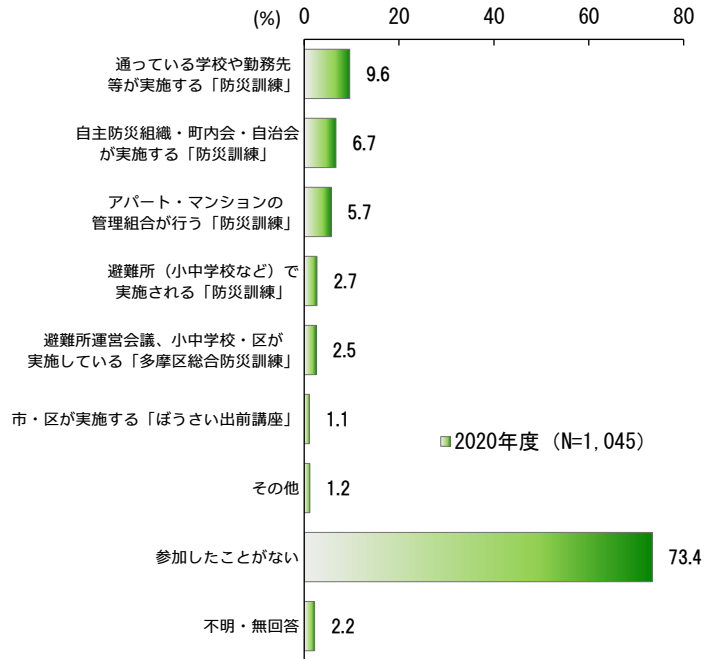


「災害に対する備えに関する情報の効果的な提供手段」を聞いたところ、「スマートフォンアプリ」(36.3%)が最も高く、次いで「SNS (ツイッター、フェイスブックなど)」(32.2%)、「区 (市) のホームページ」(31.6%)の順となった。

24 直近1年以内に参加したことがある防災訓練や出前講座

24

TAMA



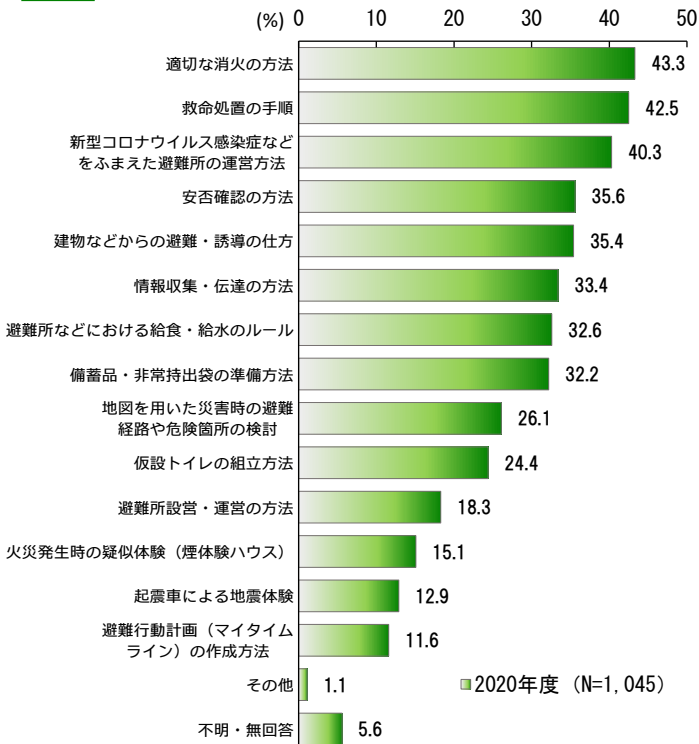
「直近1年以内に参加したことがある防災訓練や出前講座」の参加状況について聞いたところ、「参加したことがない」(73.4%)が最も高い結果となった。

参加したことがある訓練や講座で見ると「通っている学校や勤務先等が実施する「防災訓練」」(9.6%)が最も高く、次いで「自主防災組織・町内会・自治会が実施する「防災訓練」」(6.7%)、「アパート・マンションの管理組合が行う「防災訓練」」(5.7%)の順となった。

25 効果的だと思う防災訓練や出前講座の内容

25

TAMA

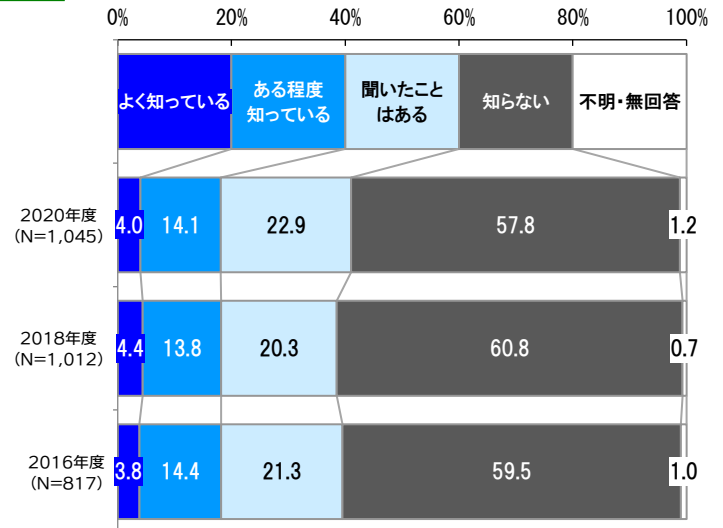


「効果的だと思う防災訓練や出前講座の内容」について聞いたところ、「適切な消火の方法」(43.3%)が最も高く、次いで「救命処置の手順」(42.5%)、「新型コロナウイルス感染症などをふまえた避難所の運営方法」(40.3%)の順となった。

26 「地域包括ケアシステム」の認知状況

26

TAMA



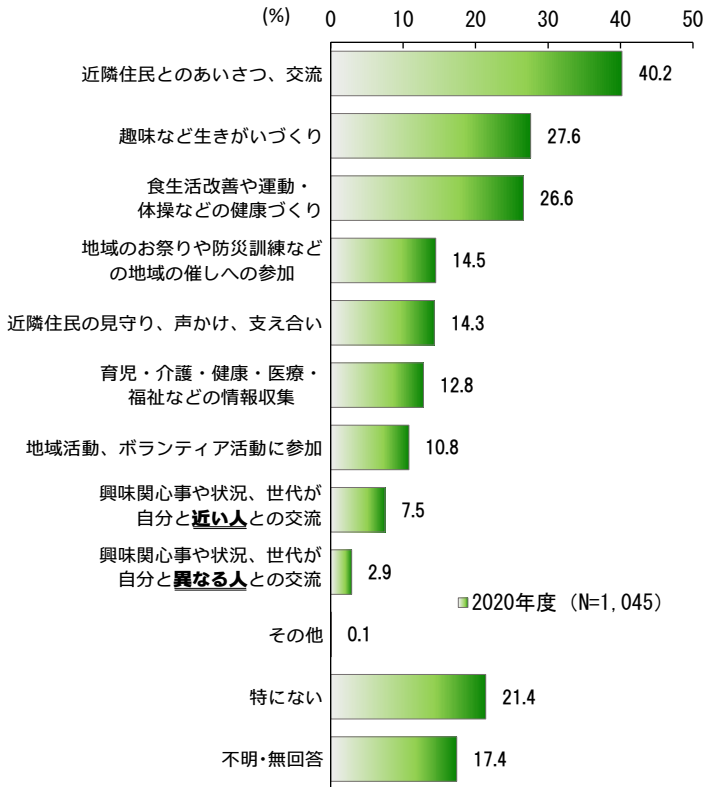
「「地域包括ケアシステム」の認知状況」について聞いたところ、「知らない」が57.8%と最も高い結果となった。次いで「聞いたことはある」(22.9%)、「ある程度知っている」(14.1%)、「よく知っている」(4.0%)の順となった。

「よく知っている」「ある程度知っている」「聞いたことはある」を合わせた『聞いたことがある計』(41.0%)は、2018年度と比較して2.5ポイント上昇する結果となった。

「地域包括ケアシステム」における 自助・互助の活動状況

27

TAMA

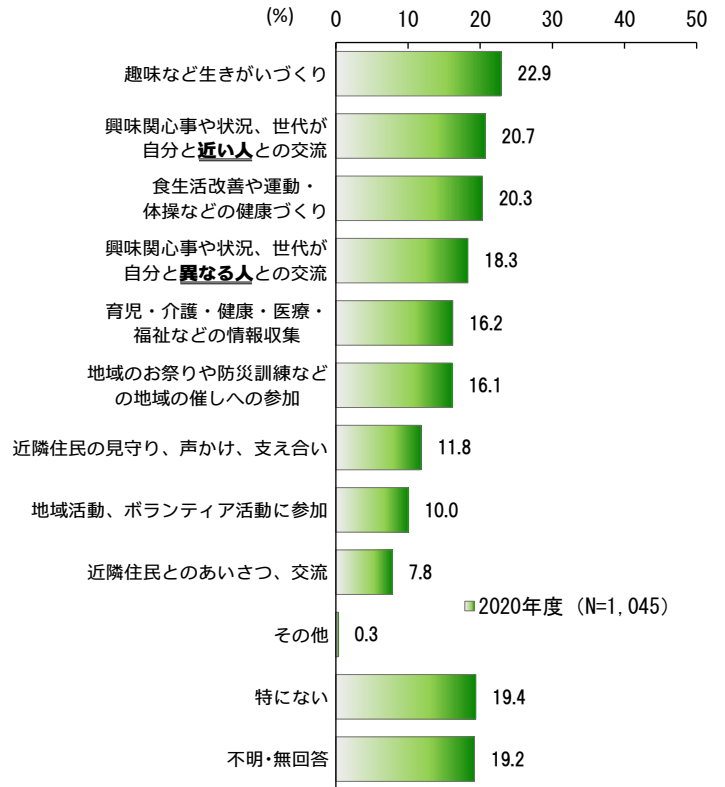


「「地域包括ケアシステム」における自助・互助の活動状況」について聞いたところ、「近隣住民とのあいさつ、交流」（40.2%）が最も高く、次いで、「趣味など生きがいがづくり」（27.6%）、「食生活改善や運動・体操などの健康づくり」（26.6%）の順となった。

「地域包括ケアシステム」における 自助・互助として行ってみたい活動内容

28

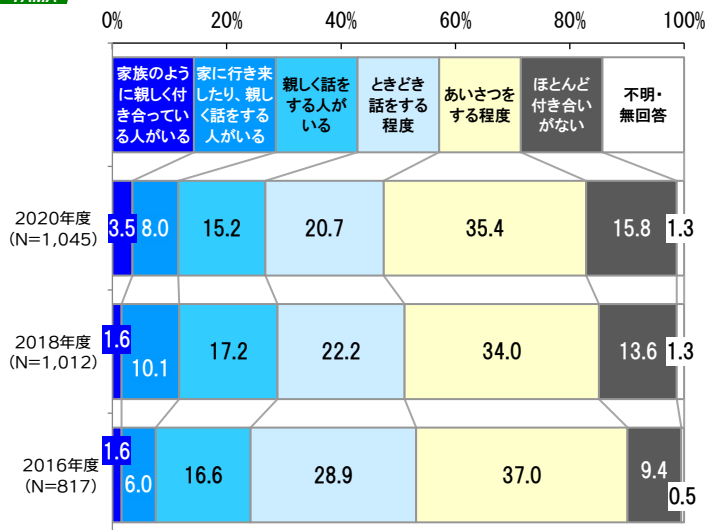
TAMA



「「地域包括ケアシステム」における自助・互助として行ってみたい活動内容」について聞いたところ、「趣味など生きがいがづくり」（22.9%）が最も高く、次いで、「興味関心事や状況、世代が自分と近い人との交流」（20.7%）、「食生活改善や運動・体操などの健康づくり」（20.3%）の順となった。

29 近所付き合いの程度

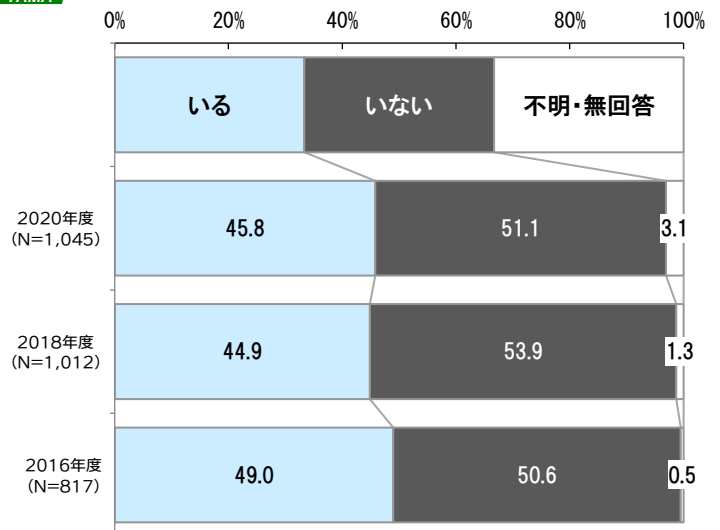
TAMA



「近所付き合いの程度」について聞いたところ、「あいさつをする程度」（35.4%）が最も高く、次いで、「ときどき話をする程度」（20.7%）、「ほとんど付き合いがない」（15.8%）の順となった。「ときどき話をする程度」は、2018年度と比較して1.5ポイント減少し、2016年度からは8.2ポイント減少する結果となった。一方、「ほとんど付き合いがない」は2018年度と比較して2.2ポイント上昇し、2016年度からは6.4ポイント上昇する結果となった。「家族のように親しく付き合っている人がいる」「家に行き来したり、親しく話をする人がいる」「親しく話をする人がいる」を合わせた『親しく話をする人がいる計』は、2018年度とほぼ変わらない結果となった。

30 近所に手助けを頼める人の有無

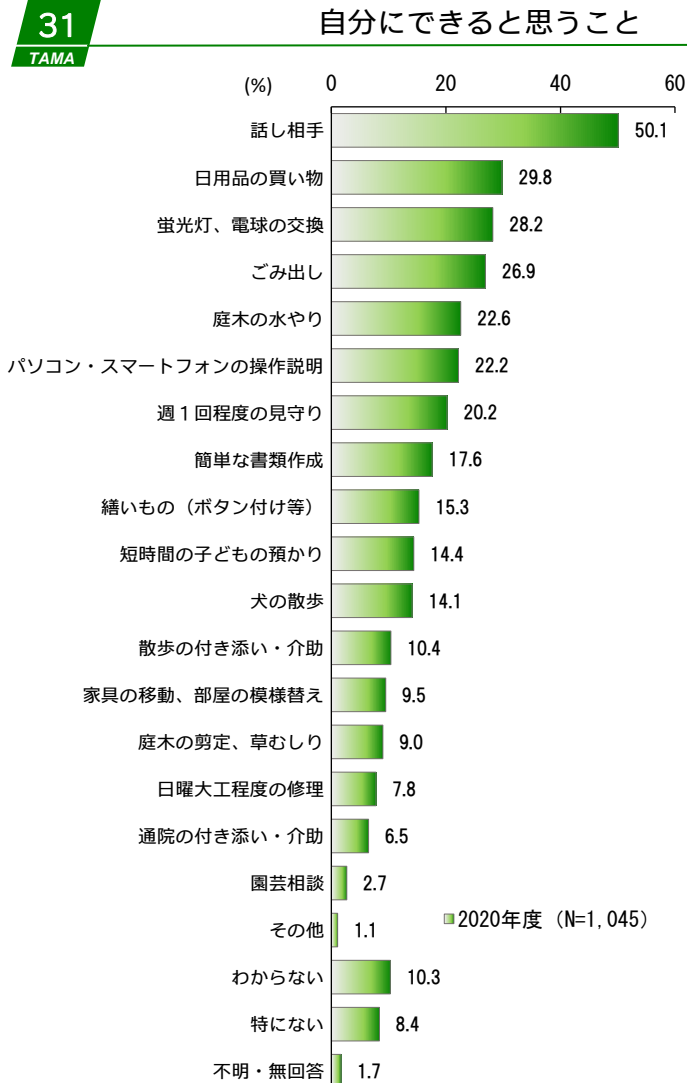
TAMA



「近所に手助けを頼める人の有無」について聞いたところ、「いない」が51.1%、「いる」が45.8%となった。2018年度と比較して、ほぼ同様の傾向となった。

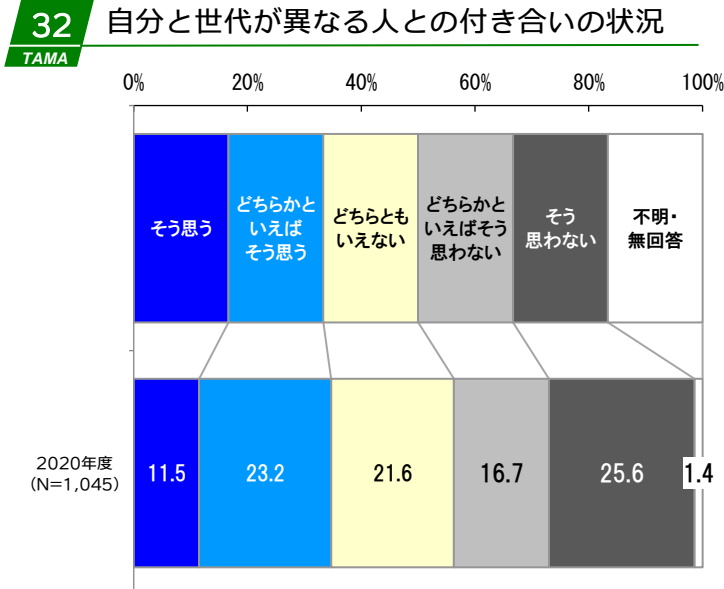
手助けを頼まれた場合に

自分にできると思うこと



「手助けを頼まれた場合に自分でもできると思うこと」について聞いてみたところ、「話し相手」(50.1%)が最も高く、次いで「日用品の買い物」(29.8%)、「蛍光灯、電球の交換」(28.2%)、「ごみ出し」(26.9%)の順となった。

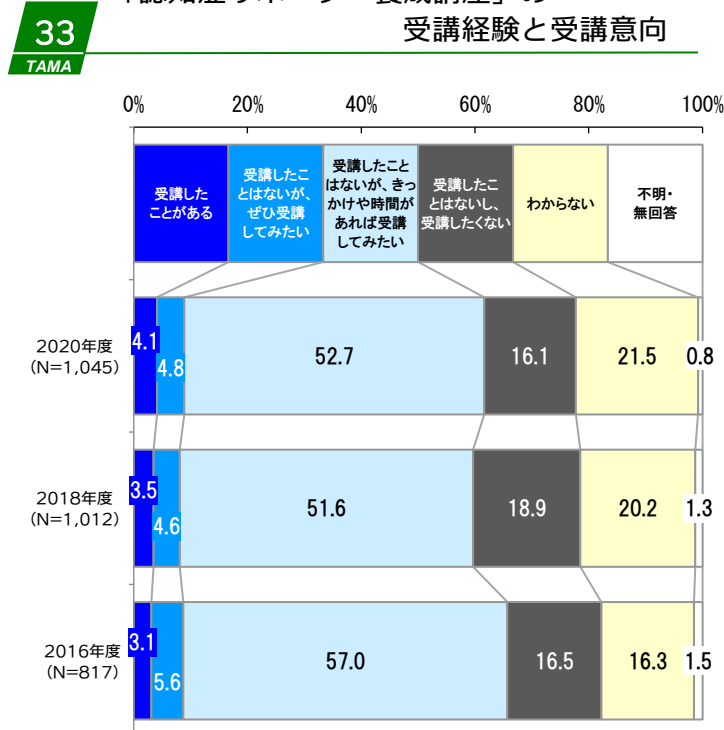
自分と世代が異なる人との付き合いの状況



「自分と世代が異なる人との付き合いの状況」について聞いたところ、「そう思わない」(25.6%)が最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」(23.2%)、「どちらともいえない」(21.6%)の順となった。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う計』は、34.7%となった。一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない計』は42.3%となった。

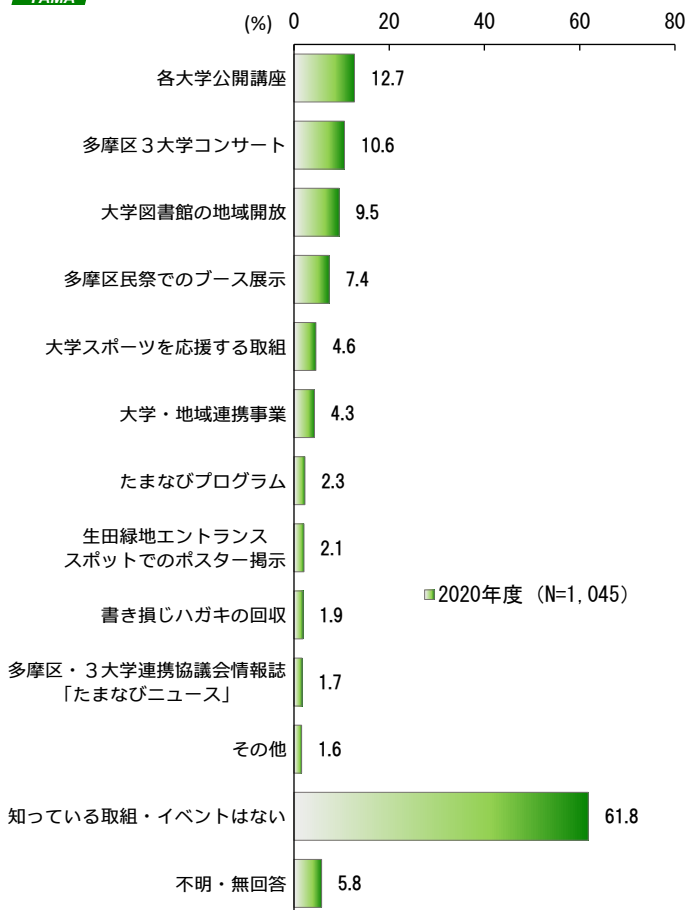
「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向



「認知症サポーター養成講座」の受講経験と受講意向について聞いたところ、「受講したことはないが、きっかけや時間があれば受講してみたい」(52.7%)が最も高く、次いで「わからない」(21.5%)、「受講したことはないし、受講したくない」(16.1%)の順となった。

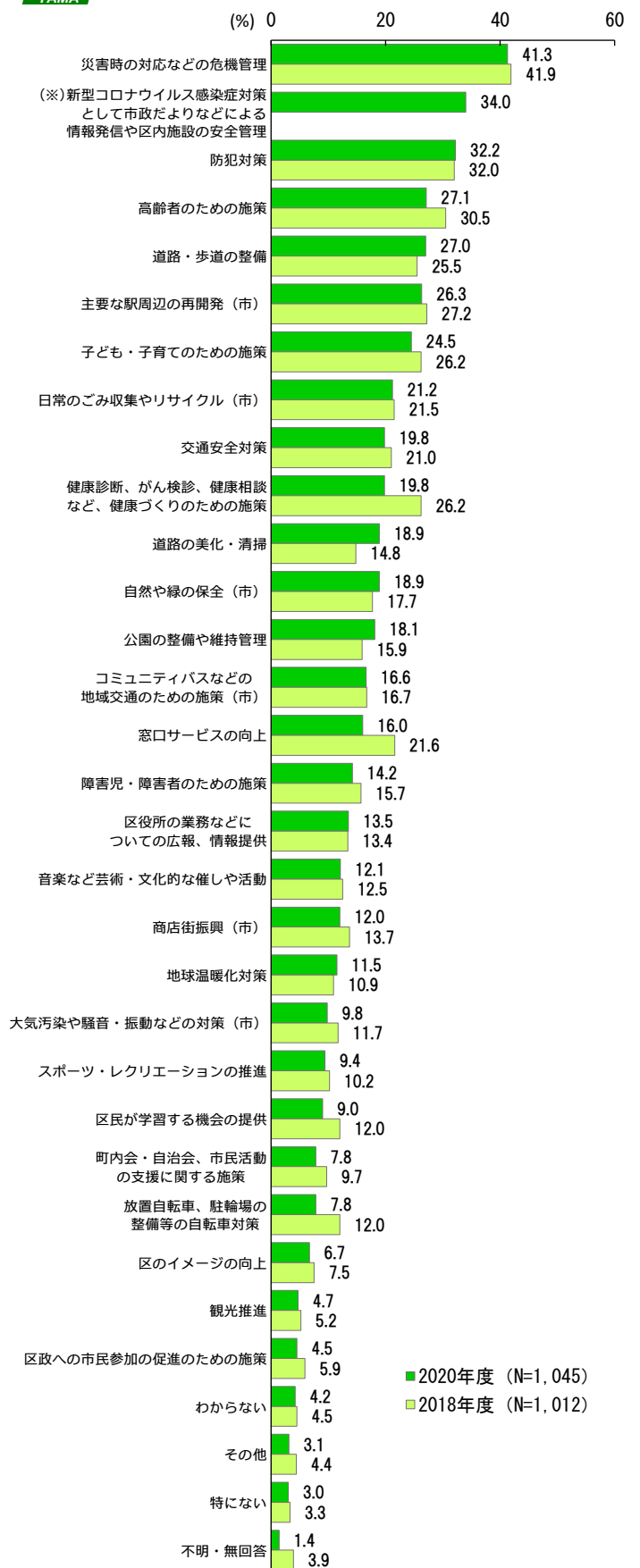
2018年度と比較して、ほぼ同様の傾向となった。

34 知っている3大学関連イベント



「知っている3大学関連イベント」について聞いたところ、「知っている取組・イベントはない」が61.8%と最も高い結果となった。知っているイベントで見ると、「各大学公開講座」(12.7%)、「多摩区3大学コンサート」(10.6%)、「大学図書館の地域開放」(9.5%)の順となった。

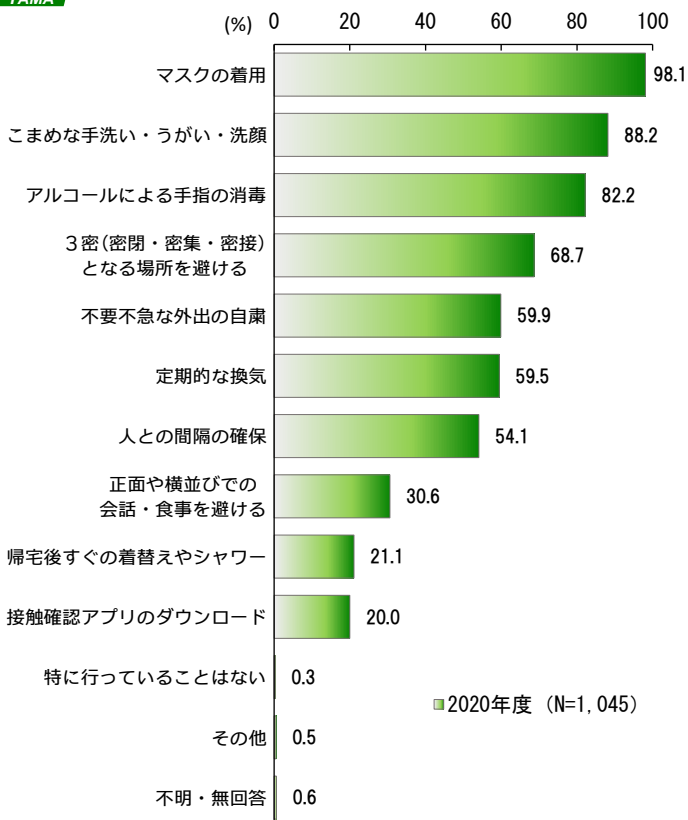
35 区役所が力を入れて取り組むべき施策



* 項目の後ろに(市)とあるものは、現時点で主に市役所を中心として進めているもの
 ※ 「新型コロナウイルス感染症対策として市政だよりなどによる情報発信や区内施設の安全管理」は、2020年度の新規項目

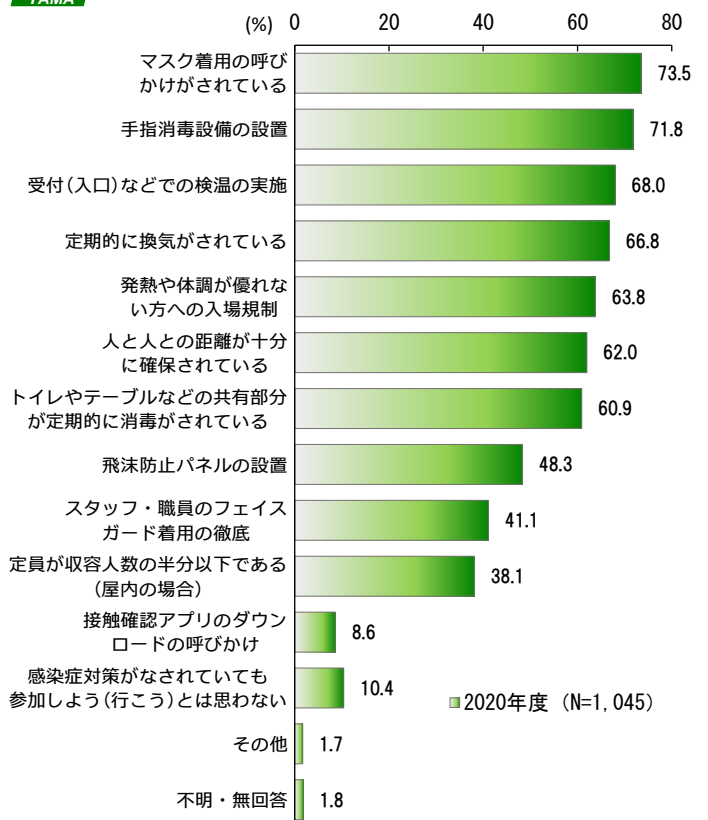
「区役所が力を入れて取り組むべき施策」について聞いたところ、「災害時の対応などの危機管理」(41.3%)が最も高い結果となり、次いで「新型コロナウイルス感染症対策として市政だよりなどによる情報発信や区内施設の安全管理」(34.0%)、「防犯対策」(32.2%)の順となった。

36 新型コロナウイルス感染症対策の実施状況



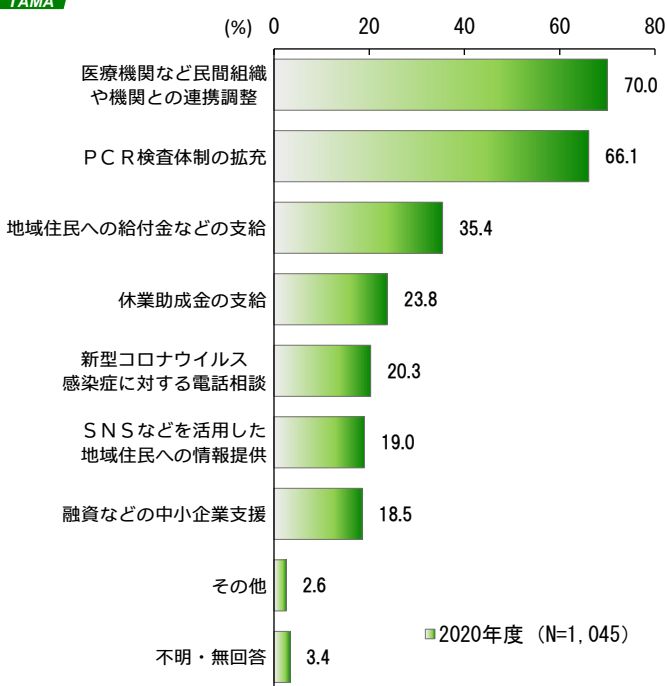
「新型コロナウイルス感染症対策の実施状況」について聞いたところ、「マスクの着用」(98.1%)が最も高い結果となり、次いで「こまめな手洗い・うがい・洗顔」(88.2%)、「アルコールによる手指の消毒」(82.2%)の順となった。

37 イベントや公共施設など人が集まりやすい場所で必要だと思う感染症防止対策



「イベントや公共施設など人が集まりやすい場所で必要だと思う感染症防止対策」について聞いたところ、「マスク着用の呼びかけがされている」(73.5%)が最も高い結果となり、次いで「手指消毒設備の設置」(71.8%)、「受付(入口)などでの検温の実施」(68.0%)の順となった。

38 市(区)が優先して取り組むべき感染症対策



「市(区)が優先して取り組むべき感染症対策」について聞いたところ、「医療機関など民間組織や機関との連携調整」(70.0%)が最も高い結果となり、次いで「PCR検査体制の拡充」(66.1%)、「地域住民への給付金などの支給」(35.4%)の順となった。